

緯度が異なる地域における色彩表現の違いについて
—社会言語学の観点からの考察

高2

#色彩語
#社会言語学
#緯度の違い
#インドネシア語
#イヌイット語

【当該研究の状況】

- ・地域によって色の表現に違いがある
- ・言語を使う人々の生活環境が色彩語に反映されている。
- ・色数には段階がある

【先行研究への問題意識】

緯度によって色の表現に違いが生じているのではないか

【RQ】

高緯度の地域と低緯度の地域において色を表す語の表現に違いはあるのか

【RQに対する仮説】

高緯度の地域では寒色系の色彩語の表現が多く、低緯度の地域では暖色系の色彩語の表現が多いのではないか

【研究目的】

地理的背景によってどのように色彩語に違いが出るのかを明らかにする

【研究内容・方法】

- ①イヌイット語とインドネシア語の色彩語を調べる
- ②2つの言語の特徴をまとめる
- ③仮説と照らし合わせて共通点と相違点をまとめる
- ④文化的・地理的背景を考察する

【結果(RQや仮説に一言で回答すると)】

高緯度の地域では寒色系の色の表現が多いという傾向は見られず、それらの色の区別も曖昧だった。低緯度の地域においても暖色系の色彩語の表現が多い傾向は見られなかった。

【結果の詳細】

【一章 イヌイト語の色彩語】

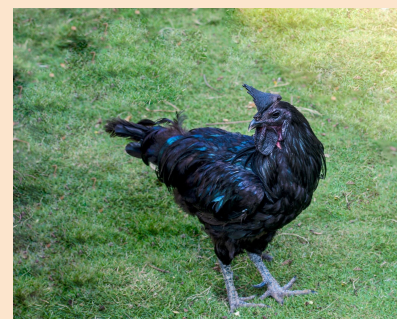
北極圏の言語では緑と青は区別されず、イヌイト語においても青と緑の区別は曖昧で、さらに緑と黄の区別も曖昧であることがわかった。(Fortescue, Michael David/2016)

黒を表す語は、tarraq(影)に由来している。また、もう一方の黒を表す語は青みがかかったという意味や青いキツネのように黒いという意味も含んでおり青と黒を同じグループの色として認識していることが窺える。

赤を表す語の語幹は、血または赤いキツネを指す派生語に使われている。

【二章 インドネシア語の色彩語】

インドネシア語では黒を表す語のなかに、hitam cemaniという語がある。このcemaniはインドネシア原産の黒いニワトリ(アヤム・セマニ)のことで、ジャワ語では真っ黒という意味を持っている。



また、緑を表す語のなかにhijau jelakという語がある。このjelakは悪い、醜悪なという意味だが、英語ではforest greenやprimary greenと表現されており、なぜインドネシア語のhijau jelakでネガティブな意味を持つ語が用いられているのかは分からなかった。

そして、青を表す語にはbiru telur itik(アヒルの卵の色)がある。アヒルの卵は青色で、インドネシアを含む東南アジアで食べられている。

【三章 共通点と相違点、それに対する考察】

共通点は、黒を表す語にどちらもその言語を使う地域の人にとって身近な動物が関係していることである。私にとって黒色は無機質なものを表すイメージがあったため、この2つの言語で動物に関係していたのは意外だった。

相違点は、イヌイト語では黒は青の意味も含まれているが、インドネシア語では黒と青は区別されている点である。イヌイトの人々は雪と氷の中で暮らしているので、空の色が白い氷に反射して青にも見えることから黒と青を混同する傾向があるのではないかと考えた。

また、インドネシア語において、アヒルの卵を表す色があり、インドネシア語話者にとってアヒルが身近なものであることがうかがえた。

【結論】以上のことから、高緯度の地域では寒色の区別が曖昧で、低緯度の地域では色の区別は曖昧なところは見られなかった。そして、どちらの言語もそこに住む人々にとって身近な動物や生活環境が反映されており、言語からその地域の文化を知ることができた。

【考察・今後の課題】

イヌイト語で黒がキツネの意味を含んでいるのは、その言語の話者の住む地域にギンギツネ(毛皮が黒、銀色のキツネ)が生息しているためではないかと考えられる。このように、言語はその地域の人々の文化や地理的背景から生まれるのではないかと推測される。今後は、インドネシア語のhijau jelakの中のjelakがどういった意味で使われているのかを明らかにしたいと考えている。

【参考文献】

浅見吏郎「日英語における太陽の色名に関する一考察：対照言語学的観点から」『札幌大学学術機関リポジトリ』2005,浅見吏郎,

<https://sapporo-u.repo.nii.ac.jp/record/785/files/KJ00004440124.pdf>

[2024年3月31日閲覧]

王軒「基本色彩語を含む日本語メタファー表現の考察」『東北大学機関リポジトリ』 2016,王軒,

<https://tohoku.repo.nii.ac.jp/record/133071/files/0916-989X-2016-24-141.pdf>

[2024年3月31日閲覧]

彭国躍「色彩意味論研究の社会言語学的アプローチ」『神奈川大学 学術機関リポジトリ』 2005, 彭国躍,

<https://kanagawa-u.repo.nii.ac.jp/record/8427/files/07%20NewsLetter07.pdf>

[2024年3月31日閲覧]

Fortescue,Michael David“*The colors of the Arctic*”『University of Copenhagen』2016, Fortescue,Michael David,

(<https://core.ac.uk/download/pdf/269272253.pdf>)

31, March, 2024

Pusat Pembinaan, Pengembangan Bahasa, Departemen Pendidikan, Kebudayaan“*DAFTAR ISTILAH WARNA*”『TIDAK DIPERDAGANGKAN UNTUK UMUM』1984, Pusat Pembinaan, Pengembangan Bahasa, Departemen Pendidikan, Kebudayaan

<https://repositori.kemdikbud.go.id/1698/1/Daftar%20Istilah%20Warna%20%28%201984%20%29.pdf>

31, March, 2024